

2025.10.28

株式会社くう

代表取締役 安東信子

グループホームそら 地域連携推進会議 会議録

1 会議の目的

- ① 利用者と地域との関係づくり
- ② 地域の人への施設等や利用者に関する理解の促進
- ③ 施設等やサービスの透明性・質の確保
- ④ 利用者の権利擁護

2 株式会社くうのご紹介

理念 — Vision —

障害を持つ方の親が笑って死ねる世の中を創ります。

使命 — Mission —

- ・人間の尊厳を大切にし、地域社会に貢献をします。
- ・従業員が働きやすく障害を持つ人が安心して暮らせる施設を創ります。
- ・出会えて良かったと思える仲間を増やしていきます。
- ・利用者、スタッフ共に、より成長していく環境を作ります。
- ・利用者さんとより良い未来へ歩んでいきます。
- ・自分の使命に気付ける人を一人でも増やします。

パンフレットを配布し、簡単に会社の概要を説明した。

3 グループホームそらとしての地域連携推進会議

- ・グループホーム・知的障害・精神障害について（レクチャー）…資料を基に説明した。

- ・ 近隣からの苦情の共有（流山グループホームぱる 2024）
- ・ BCP 業務継続計画について
- ・ 虐待・事故・ヒヤリハットについて
- ・ 利用者の意向調査アンケート

① グループホームとは

障がい者グループホームとは、障がいをお持ちの方が共同生活を営む住居です。

（障害者総合支援法という法律で定められた共同生活援助というサービスです）

利用者さんが、相談ができる場所であり、食事、入浴、排せつなどの介護があり、その他の日常生活上の支援を行います。生活への不安の軽減、孤立の防止、規則正しい生活、共同生活による身体・精神状態の安定などが期待されています。

対象者は 18 歳以上 65 歳（延長可能）までの

- ✓ 知的障がいのある方
- ✓ 身体障がいのある方
- ✓ 精神障がいのある方
- ✓ 発達障がいのある方
- ✓ 難病のある方

グループホームそらは、知的障害、精神障害の男性の方のための施設です。

② 知的障害とは、

発達期（おおむね 18 歳まで）に知的機能の発達に遅れが生じ、日常生活や社会生活に支障をきたす状態を指し、特別な支援や配慮が必要な状態とされています。

精神障害とは、心の働きや感情のバランス、考え方、行動などに不調が生じ、日常生活に支障をきたしている状態を言います。病気や障害の種類、症状の現れ方は人によって様々です。

統合失調症、気分障害（うつ病、双極性障害）パニック障害、強迫性障害などがあります

③ 利用者の日常生活の様子



グループホームぱる 池田さんより

・利用者の日常生活の様子

Iさんに自己紹介を含めて発言していただき、どんなふうに生活しているか簡単な生活の流れを話していただいた。ホームから、昼間はそれぞれ会社や通所施設に行き、働いて帰ってくる流れを理解していただいた。

④ 近隣からの苦情の共有

グループホームぱる 近所の子供に握手を求めてしまい、お母様に警戒された件

利用者さんが、近所の子供から「おはよう」とあいさつされたのがうれしくて、握手を求めさらに「手のにおいをかいでいいですか?」と言ってしまい、お母様に警戒され、お父様より安東に連絡があった。すぐに、本人に注意し、相手の方のお宅に伺って謝罪した。お母様は実家の近所にも自閉症の人が住んでいたの少しはなれているが、においを、と言われてとても気持ち悪かった。とおっしゃっていた。

⑤ 経営状況の報告

残高試算表を提示し、現在黒字で経営できていることを報告した。

⑥ 業務継続計画について

自然災害発生時における業務継続計画と 感染症発生時における業務継続計画を配布し、簡単に説明した。

⑦ 虐待・事故・ヒヤリハットについて

お味噌汁を持っている職員に利用者がぶつかり、みそ汁で軽くやけどした件が報告された。事故として

処理されていたが、書類がぱるにあり、お見せできなかった。

⑧ 利用者の意向アンケートについて（7名分回収）

1. サービスの提供について

困ったときに職員が助けてくれますか

はい 7名

活動のサポートがありますか はい 5名

家族への連絡の前に、本人に確認がありますか はい 3名 いいえ 2名

2. 安心・快適性について

共有スペースは清潔に保たれていますか はい 7名

職員の言葉遣いや態度に満足していますか はい 6名 どちらともいえない1名

利用者同士のトラブルが起きた時の対応に満足していますか はい 6名 どちらともいえない1名

3. 利用者個人の尊重について

ご自身の気持ちを大切にしてくれていますか はい 6名 いいどちらともいえない 1名

プライバシーを守られていますか はい6名 どちらともいえない 1名

サービス計画の作成や説明はわかりやすいですか はい 5 名 どちらともいえない 1 名

いいえ1名　ちょっと難しい

4. 不満・要望への対応について

不満や要望を伝えたとき、対応してくれますか はい名 どちらともいえない 1 名

職員以外の相談先について案内がありますか はい 5 名 どちらともいえない 1 名

自由意見（ご感想やご要望があればご記入ください）

できれば男女問わず（特に 30 代～50 代の世話人をさらに増員してほしいです）

もっと居心地がよくなるようにしてほしいです

食事がおいしい 部屋の片づけや整理を手伝ってくれる

特にないです

フリートーク

Tさんは埼玉県K市で相談支援事業所の管理者および相談支援専門員を務めており、約50名の利用者が入居するグループホームの施設長も兼任している。グループホームでは利用者の要望を聞き入れ、生活のサポートをすることを基本方針としている。

Iさん（利用者）は、グループホームでは要望を聞いてくれるので良いと思うと述べ、家族からも利用者が楽しく過ごしていることが報告された。

グループホームばるは東急団地内で運営しており、地域との関わりについて、災害時などに協力しあえるよう、事前に地域住民との関係構築の重要性を認識している。自治会の役員を務めた経験があり、それによって地域の人々との繋がりが増えたことはよかった。地域の防災訓練やゴミ拾いなどの活動に参加しており、徐々に地域との交流を深めている。

Iさんはグループホームの利用者として、地域住民に対して挨拶を交わすことの重要性を強調し、挨拶を通じて関係構築ができることを説明した。

防災訓練などの地域のイベントに参加することで民生委員との繋がりができ、グループホームについて関心を持ってもらえるようになった。

課題:

グループホームの利用者と地域住民との間で起きた問題（利用者が近所の子供に握手を求めたこと）

解決策: 地域住民との適切な関わり方について理解を深め、挨拶を基本とした関係構築を進める

課題: 災害時などにグループホーム利用者が地域との連携がうまくいかないリスク

解決策: 事前に防災訓練などの地域行事に参加し、顔見知りの関係を作っておく

課題: 利用者が地域行事に参加したがないことがある

解決策: 防災訓練後の防災食の試食など、参加する魅力を伝え、少しずつ参加を促す

課題: コロナ禍で計画していたお茶会などの交流イベントが実施できなかった

解決策: コロナが落ち着いた今、再度地域との交流イベントを計画する

- ・地域の防災訓練（11月予定）に参加することにした。
- ・中野台地域の「カスミソウ」というコミュニティイベント（コンサート、お茶会など）の情報を共有し、利用者や職員の参加を検討する。→12月参加予定
- ・今後も年に一回地域連携推進会議を定期的に開催し、グループホームと地域との関係構築を継続的に進めていく。
- ・グループホームの運営において、利用者の声を聞くことを重視し、地域との共生を目指す方針を確認した。
- ・「絆」と「挨拶」を大切にし、今後も地域との交流の機会を作っていくことを確認した。